

学校名	研究課題	研究手法
大徳小学校	教科一般	ICT の活用・プログラミング教育

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 ICT 機器を活用し、かかわり合いを生む指導の工夫

各教科や総合的な学習の時間等において、児童が ICT 機器を活用しかかわり合いを深めることができるように、研究授業を通して学習活動や学習形態などのあり方について実践を行った。また、情報教育年間計画や情報モラル教育年間計画を作成し、ICT 機器を普段の授業において計画的に活用できるようにした。

①第6 学年体育科での実践

体育「ボール運動（サッカー）」において、単元の目標である「チームの特徴に応じた作戦を立てることができる（思考）」を達成するために、iPad や「えんたくん」を活用した。自分たちの試合を iPad で録画し、その映像をもとに話し合いながら作戦を立てていった。試合の映像をもとに作戦を立てていくことで、従来のワークシートを用いたときよりも、質の高い作戦を立てることができた。また作戦を記録した「えんたくん」は直径 88cm の円形のホワイトボードになっており、いつでも自分のチームの作戦を確認することができた。



②第1 学年国語科での実践

国語科「くじらぐも」の単元において「会話文を工夫しながら、場面の様子がよく分かるように音読することができる（読むこと）」をねらいとし、タブレットで「ロイロノート」を活用した音読紙芝居作りに取り組んだ。このロイロノートは、写真を取り込み、その写真に繰り返し録音できる発表ツールアプリである。この特性を生かし、録音した児童の声、場面の様子が分かる音読になっているか、自分が想像したことが音読に表れているかを聞き返し音読紙芝居を作っていく。友達同士で声の大きさや話し方についてアドバイスし合いながら作っていったことで、普段の音読よりも工夫されたものになった。



(2) 重点2 ICT 機器の活用、プログラミング教育推進のための環境整備

①ICT 機器の活用例・実践例の共有

前年度から引き続き、いつでも、どの教室でも ICT 機器が活用できるように環境整備を行った。また ICT 機器の様々な活用ができるように、実践例や活用例を「情報 News」という情報通信を教職員に配布した。



②校内研修の充実

プログラミング教育モデル校 2 年目として、全校的な取り組みを促進してい

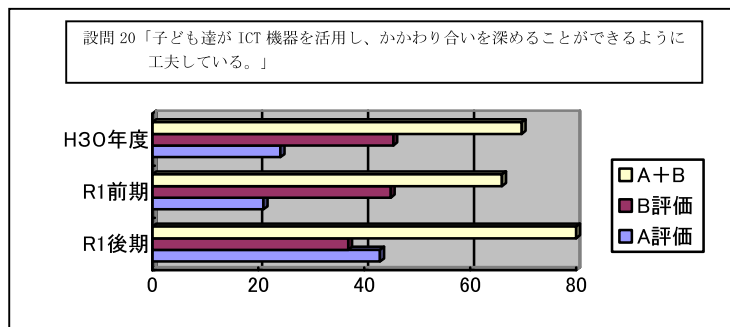
くため、前年度よりも校内研修の充実を図った。年度当初には、情報担当を中心に、「金沢市プログラミング教育ベーシックカリキュラム」を活用した授業実践等の校内研修を行った。そこで、各学年の情報担当と連携しながら、学年団として協力し合いながらプログラミングの授業実践ができるように情報の共有化等を併せて行った。また夏季休業中には、外部講師を招聘し、円滑なプログラミング教育の進め方等について学ぶことができた。さらに11月には、プログラミング教育の授業公開を行い、プログラミング教育を円滑に実践するためのよりよい取り組みや授業実践について、さらなる充実を図ることができた。



2 取組の検証

情報教育年間指導計画や校内研修の実施等を通して、昨年度よりも ICT 機器の活用やプログラミング教育促進を図ることができた。

また学校自己評価からも教員の ICT 機器活用やプログラミング教育に対する意識が向上したことがわかる。「子ども達が ICT 機器を活用し、かかわり合いを深めることができるように工夫している。」という設問では、肯定的回答が前期では66%だったのに対し、後期には80%と改善している。また前年度と比較しても肯定的評価が11%のびており、積極的に ICT 機器を活用し授業がなされたといえる。



3 成果と課題

iPad や「えんたくん」等の ICT 機器や学習ツールの整備が進み、授業等での活用が前年度よりも進んだ。またプログラミング教育に関する校内研修の充実を図ったこともあり、今年度は全校的な授業実践ができたと言える。また学校自己評価からも分かるように、授業の中に ICT 機器を取り入れ、授業や児童のかかわり合いの質を向上させるために工夫しようという教師の意識も向上した。

しかし課題としては、プログラミングの授業で使用する機器の機能維持・整備や児童の実態にあった単元構成が挙げられる。いつでも、誰でも同じ質の授業実践を行っていくためには、使用する機器の修繕や見直し、カリキュラム・教育課程の見直し・修正が必要となってくる。今後も教員間はもちろん、外部や家庭とも連携した計画的な指導を実施していく必要がある。